



私たちは花が好き。緑が好き。人が好き。

園芸福祉ふくおかネット

花便り No. 58



- 目次
- ・ 第19回園芸福祉シンポジウムinくれに参加して
 - ・ 苔玉研修会について
 - ・ ボタニカルライフスクエアー人ー花ハッスル事業
苔玉体験講座
 - ・ エッグプラント研修会について
 - ・ ボタニカルライフスクエアー人ー花ハッスル事業
エッグプラント体験講座
 - ・ アロマスプレー研修会について
 - ・ ゴーヤを育ててみました
 - ・ 市役所花壇管理
 - ・ 園芸福祉の庭
 - ・ 新会員紹介
- ※お知らせ

代表挨拶

黒瀬恵子

5月14日に第20回通常総会を無事に終え、5代目代表も3年目になりました。昨年開催した初級園芸福祉士養成講座のお陰で若い方達の入会があり、近年問題になっていた会員の高齢化に歯止めがかかりました。新しく会員になられた方達のためにも、今年度は研修会を多く開催し、経験豊富な先輩方が知識や技術を惜しみなく伝えられる場づくりができれば、と思っています。若い方達からは、私たちアナログ世代にはさっぱり分からないSNSのサポートをしていただき、お互いがWin-Winの関係で、楽しく園芸福祉活動ができればいいですね。遅くなりましたが、今年度もよろしくお願い致します。

第19回園芸福祉シンポジウムinくれ 4年ぶりのシンポジウムに参加して

黒瀬 恵子

4年5月27日（土）、広島県呉市のビュー・ポートくれで「第19回 園芸福祉シンポジウムinくれ」が開催されました。

コロナ蔓延の3年間、私達は行動が制限され、これまで当たり前だった会うことや話すこと、集うことができなくなりました。花や緑を通してみんなで一緒に幸せになろう、とする園芸福祉活動にとっては厳しいもので、毎年開催されていたシンポジウムも、やむなくオンラインに切り替えて行われましたが、画面越しに顔を合わせても温もりまで感じ合うことは難しく、リアルで会うことの大切さを痛感しての開催でした。

会場には、おもてなしの花としてフレッシュハーブの小さな花束が、爽やかな香りで参加者一人ひとりをお迎えしてくれました。シンポジウムのテーマは「分かち合おう会える喜び話す幸せ」で、中川勝喜氏、進藤丈典氏の両氏による基調報告「コロナ禍でも続けた花活とその効果～2つのデイサービスでの活動～」と、グループに分かれ参加者一人ひとりが、コロナ禍での様子や現状を気軽に話せる情報交換会が行われました。規制が緩和された今も、活動場所によっては以前のように活動できなくなったところもありましたが、仲間が一堂に集い、お互いの顔を見ながら話せたことで、3年間の空白を埋めることができ、次の一步を踏み出すためのエネルギーを充電することができたのではないのでしょうか。

4年ぶりにリアルで開催されたシンポジウムに、園芸福祉ふくおかネットから諫山みどりさん、北野多美子さん、吉松里美さん、黒瀬の4名が参加しましたが、これまでの参加者と大きく変わった点は、私以外はシンポジウムへの参加が初めてだったということ、しかも、全員私より若い方達です。近年、会員の高齢化が問題になっており、シンポジウムへの参加も減少していたので、このことは大きな喜びでした。翌日に園芸福祉の庭の定例作業や会員研修会を控えていたため、シンポジウム後の交流会まで参加することはできませんでしたが、私たちは一日行動を共にしたことで、いつもの活動では味わえなかったまた別の楽しさや面白さも経験することができました。

「第19回 園芸福祉シンポジウムinくれ」は、園芸福祉ふくおかネットにとっても、前に一步を踏み出す大きなきっかけづくりになったことに感謝致します。



グループに別れて行われたディスカッションの様子



おもてなしには
フレッシュハーブの
小さな花束が…

「苔玉作り」研修会に参加して

2023年5月28日 13時より 於/アイランドシティ中央公園内にて



横山 朱美

初めての苔玉作りを楽しみに参加しました。苔だけを丸めた物かと思っていたら、中心に植物を苔で包み込んだステキなものでした。まず初めは緑色の布でできた苔玉の模型に糸を巻いていく練習でした。これがなかなか難しく巻いてはほどき何度も巻き直して、やっと何とかきれいに巻けるようになったので、いよいよ本番です。赤玉土とピートモス、ケト土という初めて聞く土を水を加えながら捏ね、これを手で丸めて真っ黒い泥団子の出来上がりです。これをおせんべいのようにペタンコにして植物の根鉢に貼り付けて泥団子のように丸めたものを四角い苔の上に置き、両手でやさしく包み込みまん丸く作りました。次は練習した糸巻きの本番です。竹ばしの先に糸をかけて苔玉の底の方から中心に竹ばしを差し込み、何度か巻き直しながらぐるぐる巻いて出来上がりました。最後に水の入ったバケツの中に両手でやさしく持った苔玉を2～3回上下にゆらして表面の汚れを取り完成しました。皆さんとお話ししながら和気あいあいと楽しく大変勉強になりました。材料の調達や準備が大変だったと思いますがありがとうございました。

大森 直美

私は初体験でしたので興味津々、ワクワクしながらのスタート。赤玉土、ピートモス、ケト土で楽しく泥団子作り、植物はネオレゲリア、ムラサキオモト、サクラランの3種、緑の苔、入念な苔への糸巻き練習の成果あってか否かこの世に一つだけの苔玉が完成。とても可愛らしく愛しくさえありました。参加者9人で、ワイワイお話ししながらとても楽しい一時を過ごしました。準備と丁寧にご指導下った黒瀬代表、皆さんに感謝しております。今は、苔玉が乾燥しないよう水プールにつけたり、霧吹きをかけることで元気に育ってくれています。



ボタニカルライフスクエア一人一花ハッスル事業 「苔玉作り」体験講座を終えて



北野 多美子

令和5年6月3日（土）に福岡市植物園ボタニカルライフスクエアで午後1時と2時の2回体験講座が行われました。

ボタニカルライフスクエアは、（公財）福岡市緑のまちづくり協会が一人一花運動の拠点である福岡市植物園において、緑のある空間や生活の良さを感じてもらい、花や緑のあるライフスタイルの発見、発想、発信を生み出す新施設です。

苔玉は園芸福祉ふくおかネットの十八番であり、コロナ禍で講座が行われていませんでしたが、初のボタニカルライフスクエアで久々の体験講座となりました。

スタッフは事前に研修会を開催し、新会員も経験豊富な会員も手順や注意点を確認し、体験者のサポートが出来るようにしました。

体験講座当日はHPや会報誌で開催を知り参加された方、ふらりと施設に寄り参加して下さった方の総勢17名でした。

植物園内なので広報の仕方を工夫しないと体験者が集まらないと感じました。

一番印象に残っているのは、幼児の女の子で父親と参加され「ネオレゲリアファイヤーボール」のピンク色が気に入り、小さい手で頑張って製作してくれ、出来上がった苔玉はお母さんへのプレゼントにするそうです。父親が写真を沢山撮影している姿も微笑ましい限りでした。

体験された方々が喜んでいただけたので、私たちスタッフも温かい気持ちになりました。



「エッグプラント」研修会に参加して

2023年6月25日 12時より 於/アイランドシティ中央公園内にて



田中 節子

まずは、カズラやワイヤープランツで編んだ小さなリースの上に椰子の繊維をほぐしたものを丸めて置き巣作りです。

巣ができたなら先端に穴を開けた卵の殻をいれてみます。巣に小枝などをさしてデザインすると同時に殻が倒れないようにします。

次に、殻の中に多肉植物の土を8部目くらい入れます。

多肉植物を1個入れてみましたが安定しません。それで小さな多肉を何個か配置して、隙間に土をこぼさないように入れて作品のできあがりです。

小さなかわいい「エッグプラント」ができました。

(小さなリース・椰子繊維の巣などは自宅にあるものを使ってSDGsを考えた黒瀬さんの制作です)



吉武 多恵子

まずはじめに 巣作りからスタート。
ワイヤープランツ、くず、かずら、事前にそれぞれでリースを作って乾かしてあった物から一つ選んでいきました。
その上にココヤシファイバーを適量とり、丸めてリース上に乗せるとかわいい巣の完成!

卵の方も、事前に上部分のカラを2割ほど取って中身を取り出し洗っておいれたカラを先ほどの巣に乗せてみます。

ぐらつかないように巣でカラを固定させると、今度は巣のアレンジです。ナンテン、ヤマボウシ、ヤマブキの枯れた小枝をさすとますますリアルな鳥の巣に近づきました。

次にカラの中に土をスプーンでそっと入れてからピンセットで小さい多肉植物を植えていきました。

この作業は、容器になっているカラを握りつぶしてしまわないように優しくさと丁寧が必要でしたが、出来上がりの可愛さを見ると納得です。

田中さんから、根腐れするので水やりのコツは「忘れてた!」位の感覚で「おもむろに!」と教えていただき、外出の多い夏休みでこの暑さの中でも元気に育っております。